

2週間で6,666名 法定署名数突破

住民投票求める直接請求は成立、受任者は1226名に

明石駅前の再開発計画を住民投票で決めるよう提案する直接請求署名は、1カ月間の折り返し点になる15日目の8日時点で署名回収数を中間集計したところ、10日正午現在で確認できただけで6,666名に達していることがわかりました。

明石市の有権者数は9月2日現在の登録数が23万8512名で、直接請求に必要な50分の1の4,771名を2000名近く上回っており、2週間で直接請求に必要な署名数を大幅に上回っていることが判明しました。

この署名数は、現時点での受任者1226名の一部しか集約できておらず、集約に至っていない署名数はこのほかにも相当数あることが見込まれます。

街頭で、地域で、人の集まるところで、集会で…

あと2週間、住民投票実現へ署名上乘せ

市民の反応は上々で、再開発を住民投票で決めるという訴えは大きな支持を受け、全市民に浸透しています。

残る2週間の署名期間をフルに使って、街頭で、地域で、スーパーなど人の集まるところで、グループ等の集会で、法定署名数の5倍、10倍の3万～5万人の署名達成をめざしましょう。

♪♪お願い♪♪

署名簿の逐次回収

署名簿は24日の署名期間終了後速やかに回収し、整理・集計して28日（金）には明石市選挙管理委員会に提出します。このため、受任者のお手元の署名が満杯になった分から順次、事務局へ回収をお願いします。

回収は①銀座通りの住民投票の会事務所へ持参 ②街頭署名所や常設署名所への持参 ③駅前事務所への郵送（折りたたんでも結構です。送料はご負担下さい）一等から選択下さい。その他の回収方法は事務局へ電話でご相談下さい。☎911-5015

住民投票の直接請求に対抗？ 商工2団体が“丸写し請願書”

住民投票の会は駅前の中心商店街に拠点を築き1カ月半活動を続けてきた結果「駅前周辺の商業者は再開発推進派」というこれまでの市の宣伝は全く根拠がなく、むしろ「あのような再開発で明石駅前中心市街地の活性化につながらない」という冷ややかな見方が多いこともわかりました。

そのような中で明石商工会議所と明石市商店街連合会が4日、それぞれの代表者名で市議会に請願書を提出しました。再開発事業をスケジュールに沿って推進することを求めたもので、文面は、写し間違えた2カ所の「てにおは」を除き、そっくり同じもの。明らかに行政職員または再開発事業関連団体に天下ったOBが書いた文書を丸写ししたとしかいえないものです。

請願趣旨の文面中ほどには「本年10月頃には、（再開発組合が）認可される見通しであるにもかかわらず、当再開発事業の是非を問う住民投票条例制定に向けた直接請求の署名活動が行われています」と、住民投票の直接請求に対抗した請願であることをにおわせ、これまでの経緯を連ねて「再開発事業推進に対する姿勢を変えることなく」積極的な支援を議会に求めています。

請願書には政和会（6名）公明（6名）真誠会（5名）民主連合（3名）の4つの会派所属議員が4～6名それぞれ紹介議員として署名しています。中身を理解しての署名なのか???

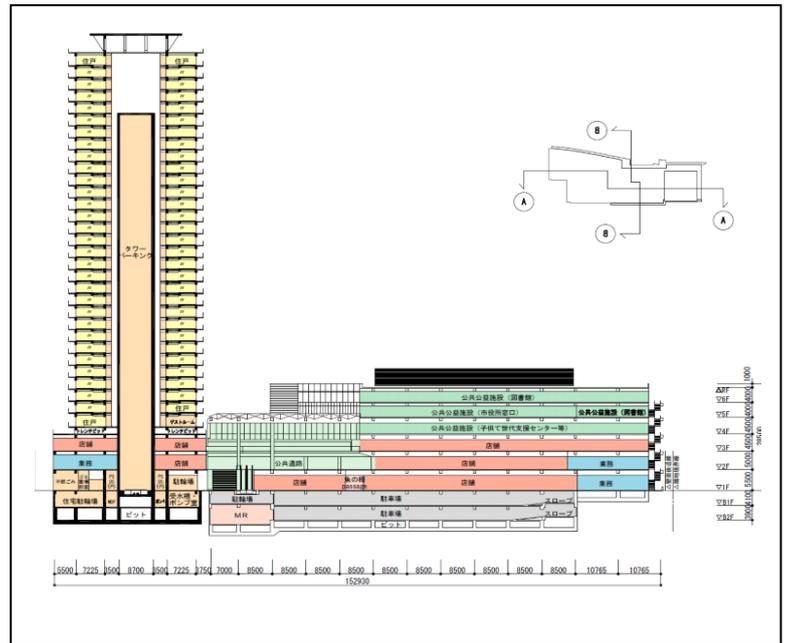


大丈夫?? タワーリング・インフェルノ??

ご存じですか? 超高層住宅の真ん中に100mのタワー駐車場

明石駅前南地区に計画されている再開発計画の中心的な建物である34階建ての超高層マンション（塔屋含めて高さ124m）には、220戸の住宅が1フロアに7～8戸が外周に並ぶが、真ん中にできる四角い柱状の空間に高さ約100m、30階辺りまでのタワーパーキング（立体駐車場）が設置される設計になっている。

事業計画の縦覧で公表された図面でその詳細が分かったが、明石市内にあるタワー型の立体駐車場はせいぜい高くてもビルの6～7階ぐらいの高さ。大都市に最近林立する超高層マンションでも、このような設計はほとんど見られないと専門家は指摘するが、市の担当課によると「大林組の独自設計に基づくもので、計画中も含めて全国で8例ある」という。



220戸の住宅が超高層の立体駐車場を抱え込んで暮らす「安全標榜のまち」

上の図は昨年から公表されているものだが、構造的には超高層ビルの内部空間に各住宅をエレベーターから結ぶ「回り廊下」が造られるが、住宅の反対側の廊下の外側にすっぽりとタワーパーキングが鎮座するという設計だ。廊下と駐車場の壁との間には当然メンテ用のすき間が空いているが、玄関から廊下に出ると空間がふさがれた息詰るような設計になる。

この立体駐車場（110台）には、1階に国道2号から出入りするピットが設けられる。利用者の利便性からすると、高さ100mのゴンドラ型の駐車場からの車の出し入れ時間が問題になるが、より不安なのが防災状の問題。車は60%程度のガソリントankを積んだ、走る火薬庫と言われる。満タン状態だと、このタワーにガソリンを満載した200%のドラム缶30本を220戸の住宅で取り囲んで暮らすことになる。

迫りくる次のトリプル大地震では、長周期の揺れに見舞われ、超高層マンションの上層階は最大10m程度の横揺れに翻弄されるという。タワーの中の、ガソリン満載の車がぶつかりあいながら発火して、連鎖爆発したら…!?!? 大蔵海岸事件以来、「安全安心第一」を掲げる明石市は、この住宅と一体化した超高層タワーパーキングに、どのような安全性を確認したのだろうか? マンションのこんな構造を知ったら、とても買い手がつかないかもしれないね??

国道2号の渋滞加速、再開発ビルの260台の駐車場に直接出入り

明石市が3フロアを買い取る6階建ての商業・業務等には、地下1,2階に150台の駐車場が計画されている。ここでの問題は、地下駐車場への出入り口が国道2号に面してつくられることだ。マンションの立体駐車場への出入りも国道2号からだ。

再開発ビルに面した国道の東行き車線は2車線。明石市内で最も込み合う区間だ。駐車場へ入る車が国道の車線をふさぐ。国道に出る車を誘導員が案内すれば、国道の流れを止める。どだい、この区間に260台もの駐車場を計画すること自体が無茶で、都市計画上も駅に直結した超都心に大規模な一般駐車場を造ること自体が、時代に逆行した感覚である。

市街地のビルへの駐車場の附置義務を四角四面に解釈した結果だが、それこそ赤字経営の元凶であるアスピアのがらから駐車場に振り替える発想もない行政に、再開発事業をリードする資格はない。